

「大切な資源」を生かすために!!

各種ごみを排出する際、特に注意すべき事項 その②

共通事項

- ①各種ごみの収集日の午前8時までに決められた集積所に排出してください。
 - ②ごみ（資源ごみを除く）は、野洲市指定の袋・シールを使用し、必ず氏名を記入し排出してください。
- ※ごみ袋等への氏名の記入は、ごみの分別について責任をもって排出いただくためのものですので、必ず氏名の記入をお願いします。

乾電池

- ①集積所に設置されている乾電池回収容器に排出してください。
- ②ボタン電池、充電式電池は販売店のリサイクルボックスに排出してください。



◆環境課

☎ 587 - 6003
FAX 587 - 3834

燃えないごみ

- ①陶磁器類、ガラス類、電球、蛍光灯、小型電気製品、その他（硬質プラスチック類、傘、刃物、電気コード、ビンの金属キャップ等）は、「燃えないごみ」で排出してください。
- ②ライターは、使い切るか風通しの良い場所で中身を出して、「燃えないごみ」で排出してください。※収集車両等の火災の原因になります。
- ③電気コードなど長いものは、1m以内に切断して排出してください。
- ④割れたガラスなどは紙や布で包んで「キケン・ガラス」等と記入し排出してください。
- ⑤燃えないごみ指定袋に入らないものは「粗大ごみ」として排出してください。

粗大ごみ

- ①家電製品（家電リサイクル対象品を除く）、家具類、寝具類、その他（自転車、スキー板、ゴルフバッグ等）は、1点につき粗大ごみ指定シール1枚を貼って、指定のごみ集積所に排出してください。
- ②大きさは1.8m×1m×0.8m以内、重量は50kg以下で排出してください。
- ③布団、じゅうたん、カーペット類は1m角に切断して十文字にひもでしばって排出してください。
- ④リユース（再使用）にご協力いただける場合は、名前欄に「○」の記入をお願いします。

《粗大ごみとして出された不適切な事例》



パソコン、バッテリー、消火器等は集積所には排出できません。購入店や各メーカーにお問い合わせください。

毎月第4土曜は 廃食用油回収の日

10月27日(土) 午前10時～正午

回収会場…市役所別館横電話ボックス付近

回収物…廃食用油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

「家棟川ビオトープ自然観察会」

家棟川で船に乗って周辺の自然や魚の観察もできるよ!

日時…11月3日(祝)午前9時～正午※小雨決行です

会場…家棟川ビオトープ(野田、家棟川河口北側)※現地集合

参加費…200円(保険・資料代)

対象…小学生以上、先着30人※参加決定の可否とともに、参加者には持ち物などの詳細を連絡します。

申し込み・問い合わせ…10月26日(金)午後5時までに住所、氏名、年齢、連絡先を電話、ファクスのいずれかで環境課☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(97)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【休館日】 月曜日、10月9日 ※10月8日(祝)は開館 ※市民は入館無料

◆テーマ展「野洲の歴史と文化」 10月6日(土)～11月25日(日)

展示解説…10月20日(土)午後1時30分～

◆友の会歴史入門講座①／「天保一揆と近江」10月11日(木)午後2時～4時 講師…古川与志継(当館職員) ※資料代200円

◆陶芸作品・穴窯焼成のご案内【博物館友の会陶芸部】 作品搬入…11月18日(日)まで／焼成期間…11月21日(水)～27日(火)／参加費…一口5,000円(粘土3kg・焼成費用含む、友の会に要入会)

制作教室…①10月8日(祝)午後2時～②11月9日(金)午後2時～／参加費…一口2,000円(粘土1kg・焼成費用含む) ※1教室につき15人限定、電話にて事前申し込み

◆赤米づくり体験教室(稲刈り) 10月27日(土)午後2時～

◆友の会夏まつり写真展示 10月31日(水)まで ロビーにて

◆ドウタクくんの誕生会 11月3日(祝)午前11時～正午 研修室にて

御上神社両界曼荼羅図

「曼荼羅」は密教の宇宙観・仏教理念を図式的に描いた仏画です。主に天台宗や真言宗の寺院で用いられますが、三上の御上神社には南北朝時代(1336～1392年)に作られたと考えられる「両界曼荼羅図」(滋賀県指定文化財)が伝わっています。これは、御上神社にも日本固有の神の信仰と仏教信仰が折衷して融和した神仏習合の信仰があったためです。

この「両界曼荼羅図」は、

金剛頂経に基づき密教の「智」の世界を表す金剛界曼荼羅(186・5×144・5cm)と、大日経を基に密教の「理」の世界を表す胎藏界曼荼羅(187・5×145・5cm)の二種から成り立っています。金剛界は、九区画にわかれ、上段中央の一印会に大日如来を描き、胎藏界は大日如来を中心に諸仏を描いています。

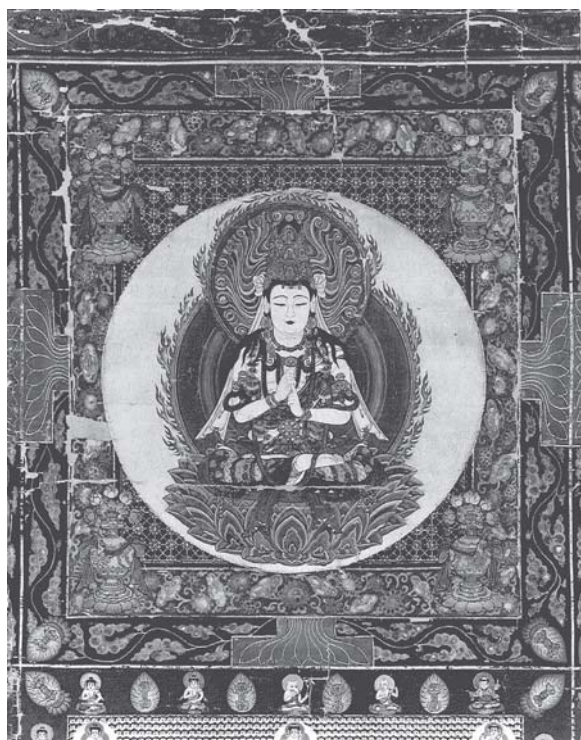
御上神社の曼荼羅は、空海(弘法大師)が唐から持ち帰った現図本曼荼羅を忠実に大きく転写したもので、それぞれの仏の姿が細かく整然と描かれ、鮮やかな色彩をとどめています。また、掛軸の表装(絵の周囲の模様)は、別の布を貼らずに、絵と同じ一枚の布に模様を描いた「描表装」であることもこの両界曼荼羅図の特徴です。

同図の裏面には墨書があり、天文5(1536)年に修復され、今は廃寺となった福林寺と東光寺の僧が開眼供養を行ったことが記録されています。また、江戸時代にまとめられた地誌『近江輿地志略』には両界曼荼羅図が円仁(慈

覚大師)によって請来し、源頼朝が寄進したとの伝承が記されています。

今回、10月6日(土)から11月25日(日)まで開催している博物館テーマ展「野洲の歴史と文化」では、御上神社両界曼荼羅図を展示します。当館での同図の公開は、5年ぶりとなりますので、この機会にぜひご覧ください。ご来館をお待ちしています。

(博物館学芸員 齊藤慶二)



金剛界曼荼羅図(部分・一印会)